

# 海外中等教育向け初級日本語教育素材集

## 『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』

木山 登茂子・坪山 由美子・八田 直美・古川 嘉子・向井 園子

### はじめに

国際交流基金日本語国際センター制作事業課では、海外の中等教育における日本語教育を支援するため、『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』の2冊の初級日本語教育素材集を開発した。本稿では、それぞれの内容、素材集としての利用の可能性について紹介する。

### 1. 概要

『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』は海外の中等教育段階の日本語教育において、教材制作や日々の授業で役立ててもらうことを意図して制作された。『教科書を作ろう』は1999年に、『続 教科書を作ろう』は2000年に発行された。それぞれが、学習項目の解説と例文からなる「せつめい編」とそれらの項目の練習案を載せた「れんしゅう編」の2冊の冊子、及び「れんしゅう編」付属のテープ1本から成る。

表1 『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』概要

	教科書を作ろう	続 教科書を作ろう
使用者	日本語教材制作者、中・高校の日本語教師	
対象の学習者	海外の中・高校の生徒	
学習段階	初級前半(4級相当)	初級後半(3級相当)
内訳	「せつめい編」(192ページ) 「れんしゅう編」(310ページ) 音声テープ(45分、1本)	「せつめい編」(118ページ) 「れんしゅう編」(268ページ) 音声テープ(80分、1本)

『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』は、素材集であると同時に、学習者の身近な話題にそって段階的に学習するための教材の構成モデルを示している。各段階(ブロックと呼ぶ)の学習内容は、一つ的话题で統一され、日本語でその話題に関連した言語活動ができるようになることを目指して、そのために必要な学習項目と練習を盛り込んでいる。『教科書を作ろう』は12のブロックに、『続 教科書を作ろう』は、8つのブロックに分けられている。両者を合わせた20のブロックの流れは、学習者を取りまく世界を考慮し、「うち」という身近な話題から「わたしの国と日本」という大きな話題へ4つのブロックが5周する構成になっている。

図1 『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』のブロック構成



## 2. 「せつめい編」

「せつめい編」は、『教科書を作ろう』が初級前半(日本語能力試験4級相当)の文法・文型、語彙の84項目、『続 教科書を作ろう』が初級後半(日本語能力試験3級相当)の文法・文型、語彙の48項目を扱っている。それぞれの項目は文型、活用、助詞、語彙に分類されている。

表2 「せつめい編」の項目分類

	教科書を作ろう	続 教科書を作ろう	計
文型	44	39	83
活用	5	3	8
助詞	27	5	32
語彙	8	1	9
計	84	48	132

学習項目は、項目の提出順に関する教育的観点からの妥当性や、ブロックの話題、言語活動目標との適合性を考慮して、各ブロックに6~9項目ずつ配してある。

表3 ブロックごとの学習項目一覧

教科書を作ろう	1 わたし Nです NはNがすぎです (と(並列) に(時) も か(疑問) 時制	2 教室 Vます NはNにあります/ます NにNがあります/ます の へ に(場所) これ/それ/あれ この/その/あの ここ/そこ/あそこ	3 外出 AIです/ANです AI/VANなN Nをください Nがほしいです を(対象) で(基準/範囲) よね 数 助数詞	4 生活 あま)…否定 で(場所) からまで や(並列) 時間 くらい/Vごろ
5 休みの日 Vました Aかったです/ANでした Nでした Vましょう Vませんか と(相手) に(目的) が(接続)	6 授業 Vてください Vてもいいです A/VANにVます もうまだ Vて形 で(手段/材料) に(基準)	7 旅行 Vたことがあります Vたい/Vた/します 疑問詞+か…肯定 疑問詞+も…否定 Vた形 で(手段/材料) に(基準)	8 高校生 Vています Vこと V辞書形 が(主語) は だけ から(理由)	

教科書を作ろう	9 健康 Vこと/Nができます NはNがA/VANです A/VAN+N Vないてください Vない形	10 友だち A<て/ANで/Nで Vて Vないで Vてから Vたいです に(対象)	11 昔と今 まえに あとで V+N とおもいます A</ANIに/Nにいます 常体形	12 日本 とき Vてあります でしょう しか...否定 Vながら で(原因/理由)
続教科書を作ろう	13 ホームステイ んです Vたほうがいいです Vてはいけません Vてみます Vかた あげます もらいます	14 学校生活 V(られます(可能) Vなければなりません Vなくてもいいです Vてします A/AN/Vすぎます 可能形 までに	15 わたしの町 たら ても A</ANIに/Nにします Vようにします より...ほう NとNとどちら	16 歴史と観光 NはNより かどうか/疑問詞...か Nと...N 疑問詞+でも...肯定 ので と(引用) こそあと
	17 わたしの将来 V(よ)とおもいます かもしれません の(名詞化) ために 意向形	18 学校行事 そうです(様態) Vておきます Vこと/Nにいます Vこと/Nにします と(条件)	19 コミュニケーション V(ら)れます(受身) Vてもらいます Vてくれます そうです(伝聞) 受身形 のに	20 現在と未来 Vようになります みたいです/ようです Vてきます/Vていきます Vやります Vにくいです

各項目には、その項目の構造を示した図、及び理解を助けるための例文、使い方についての解説、教える際の注意点、「れんしゅう編」で取り上げられているその項目の練習リスト、その項目と関連のある他の項目リストが記載されている。説明は、学習者に応じて学習内容を選択する際の参考になるように、ある学習項目の理解に最小限必要な内容からより詳しい内容まで3段階に分けて記述した。説明文に使われている日本語は、日本語能力試験2級レベルを超えないように配慮している。

文-05 NにNがあります/います

N1	に	N2	が	あります	N1	に	N2	が	います
【場所】		【もの】			【場所】		【生きもの】		

N1: N2の存在する場所  
N2: 存在するもの、生きもの

基本

例文

- 1) ドアのそばに電柱があります。
- 2) 公園に大きい木があります。
- 3) どのうしろにもあります。
- 4) あそこにはお母さんがいます。
- 5) A: 子供の学校の校庭にプールがありますか。  
B: はい、あります。
- 6) A: 先生のうちには犬がいますか。  
B: はい、います。
- 7) A: 壁の上に時計がありますか。  
B: バスケットコートがあります。
- 8) 今、体育室にだれがいますか。  
B: 山崎先生と星野の生徒がいます。
- 9) (ものを借りたいとき)  
A: ペンがありますか。  
B: はい、どうぞ。
- 10) (店で商品を売りたいとき、買いたいとき)  
A: クラシックのCDがありますか。  
B: はい、あります。



解説

- A. 「あります」はものの存在を表す。(例文1,2,3,7)
- B. 「います」は生きものの存在を表す。(例文5,6,8)
- C. ある場所について、そこに何かがあるか、誰がいるかを説明し、疑問にするときに使う。(例文4,9)
- D. 話す相手の立場について質問するときは、「何」を、「に」について質問するときは「だれ」を使う。(例文4)
- E. 「Nがいます」の形で、確認をすることが出来る。(例文10)
- F. N1がどこかわかっている場合は、「N1に」を省略することがある。(例文5,6,7)

発展

例文

- 1) A: あなさん、壁紙がありますか。 B: はい、床と壁紙の調子がありません。
- 2) 部屋がありませんから、貸い宿ができません。 B: はい、あります。来週日ですよ。
- 3) 机がありませんから、貸い宿ができません。 B: はい、あります。机のうしろでロックコンソールがあります。
- 4) 時間がありませんから、貸いできません。 B: 体育室で大きい机があります。

解説

- G. 「Nがいます」の形で、所有の関係を表す。(例文11,12,13)
- H. 「Nがいます」の形で、できごとや行動があることを表す。この場合、できごとや行動の場所を示すのに、「に」ではなく「で」が使われる。(例文14,15,16)

例文へ  
● 疑問を問うときの「Nがいますか」と「Nに」を省略して書くことが多い。

【練習問題】	【れんしゅう編】の練習問題
文-06 NはNにNがあります/います	30 ペンがありますか
文-07 Vです	40 机の上には何がありますか
文-07 に(場所)	40B わたしのうちには
文-07 が(場所)	40B 机の上には何がありますか
文-07 が(場所)	

### 3. 「れんしゅう編」

「れんしゅう編」では、ことばの定着と使用のための練習を紹介している。練習作成にあたっては、4技能のバランスに配慮し、できるだけ多様な練習のアイデアを提供することを目指した。練習は、その内容や目的によって「語彙」「文型」「聴解」「読解」「会話」「作文」「活用」に分類できる。

表4 練習タイプ

\*数字は各練習の延べ数

	教科書を作ろう	続 教科書を作ろう	計
語彙	22	0	22
文型	49	31	80
聴解	7	11	18
読解	18	14	32
会話	18	9	27
作文	10	7	17
活用	4	2	6
計	128	74	202

また、学習者が日本語を使って実際のコミュニケーションを経験できるように、学習者自身についての情報（好み、家族、行動、予定、考えなど）を交換したり、内容を自分で考えて話したりする練習にハートのマークを付し、この種の練習をできるだけ多く取り入れることとした。さらに、日本語の音声に触れてもらうために付属テープを制作し、『続 教科書を作ろう』では、カラオケつきの歌（1曲）も含めた。

表5 ハートのついた練習、テープのある練習

	教科書を作ろう	続 教科書を作ろう	計
ハートのついている練習	41	13	54
テープのある練習	24	24	48

「れんしゅう編」では、海外の教授環境で、特別な準備や教具がなくてもできる練習を中心に紹介している。練習の手順説明に使われている日本語は、日本語能力試験2級レベルを超えないように配慮した。

各練習には、その練習の分類（語彙・文型・聴解・読解・会話・作文・活用）、練習で使われる技能、授業形態（クラス全体・グループ・ペア・個人）、練習に必要なおおよその時間、「せつめい編」で取り上げているその練習に必要な学習項目リスト、練習で使う表現の談話レベルの機能（「談話の技術」）、練習の中で使用する主な語彙（「使うことば」）、練習で使用する小道具類（「準備するもの」）

練習の手順、練習で使う会話などの「モデルテキスト」や「タスクシート」、練習に際しての教師向け注意事項（「先生へ」）、イラストが記載されている。

5-9 ポスター♡

活動 ポスターや招待状を書く。 かわら 単語集 時間 ●●●

せつめい編  
\*文-15 Vませんか  
助-14 と(相手)  
助-15 に(目的)  
談話の技術

使うことば  
ポスター\*、料理、作る、1~12月、1~31日、家庭科室\*、犬\*、茶ちゃん\*、パーティー、みんな、いっしょに、語る\*、(体育館\*)  
▲ みんなで

準備するもの  
紙、色鉛筆やサインペンなどの道具

手 順

1. <モデルテキスト>のポスターや招待状を数枚、どんなイベントや行事か話し合おう。
2. 4. 5人のグループでイベントを考案する。
3. <モデルテキスト>を参考にイベントのポスターや招待状を作る。
4. 教室の壁などにはる。

モデルテキスト

(1) ポスター  
日本料理を作しませんか  
10月15日(土)  
午前10時~午後2時  
スナック室

(2) 招待状  
わたしのうちへお茶を飲みに来ませんか  
わたしのうちへお茶を飲みに来ませんか  
7月20日(日) 午後3時ごろ  
みどり高校 家庭科室

(3) ポスター  
パーティーをします!  
みんなで いっしょに おどりませんか。  
12月23日(金) 午後4時~7時  
みどり高校 たいいくかん

先生へ  
・日本語で書けない情報は母語で書いてもよいことにする。  
・<かわら>はクラスでもペアでもよい。

## 4. 利用

### 4.1 教材制作のための利用

素材集である『教科書を作ろう』『続教科書を作ろう』からは、次のような教材や参考書の作成が可能である。

- 「せつめい編」+「れんしゅう編」 学習者用の教科書、日本語教師研修用教材
- 「せつめい編」 学習者用の簡単な文法書、教師用の例文集
- 「れんしゅう編」 会話集、聴解教材、読解教材、作文教材、教室活動集

### 4.2 授業での利用

『教科書を作ろう』『続教科書を作ろう』は、教材制作のための利用以外にも、日本語教師が日々の授業を計画する際に参考にすることができる。世界の教室では、様々な教え方で日本語が教えられているが、文法学習に焦点を当て、その項目の形と意味を導入し、その項目が含まれた練習を行うことによりコミュニケーションにつなげようとする方法が多いようである。そのような方法の場合、両書の以下のような部分が利用できるだろう。

- ・ 学習項目の導入の仕方を考える場合  
「せつめい編」：「例文」、 「解説」、 「先生へ」、 イラスト、 構造図
- ・ 練習の方法を考える場合  
「れんしゅう編」
- ・ 練習で使うハンドアウトを作る場合

「せつめい編」：「例文」、イラスト

「れんしゅう編」：「モデルテキスト」「タスクシート」、イラスト

2001年9月の時点で、海外で『教科書を作ろう』を利用して制作された、または制作途上の教科書は6件ある。（「海外中等教育向け初級日本語教育素材集の開発」参照 『国際交流基金日本語国際センター紀要』本号所収）多くは、現地に既存のシラバスや教育方針に合わせて、読解・聴解の素材や会話練習を部分的に利用している。このように、『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』は、素材集であることから固定された利用の方法があるわけではなく、利用者が自由に使うことができる。今後、実際に利用した海外の日本語教師、特に非母語話者教師の声を得、素材として充実させていきたいと考える。